岩手県中央家畜保健衛生所　試験調査レポート

平成 25 年度　　分野：伝染病診断・ウイルス　家畜：鶏　　担当：八重樫、庭

IBV 浸潤実態の把握

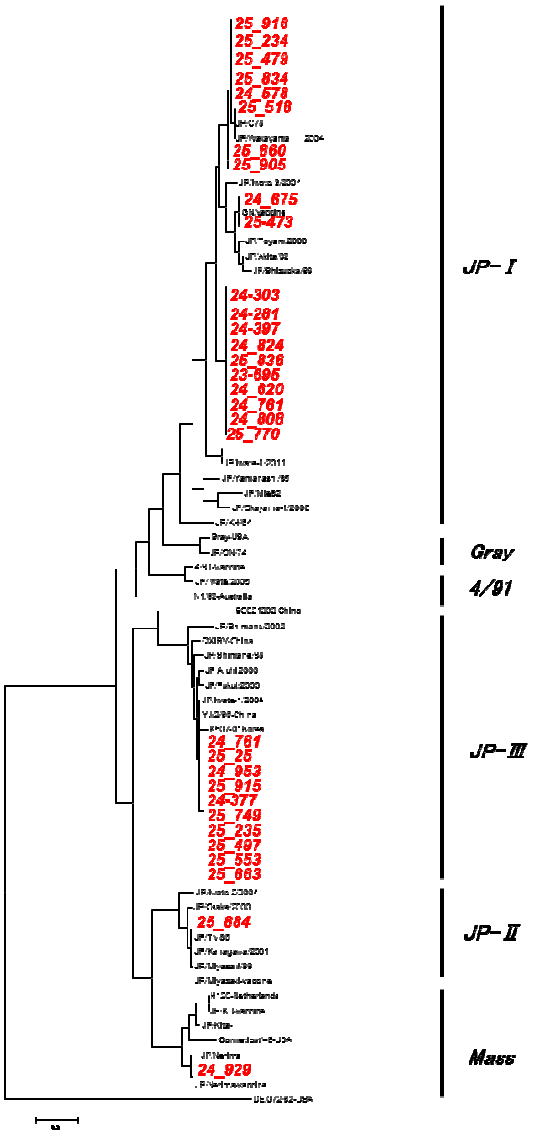
【 目的 】

近年、伝染性気管炎が散発していますが、本病の原因ウイルス（IBV）は、多様な血清型（６種）を有しているため、ワクチンにより野外株を完全に抑えることが極めて困難です。このため、IBV の野外流行株を把握し、本病の効果的な対策を検討しました。

【 成績の概要 】

● **材料及び方法**：平成 24 年５月から 26 年２月までに県内の肉用鶏農場のべ 102 農場の各 10 羽（29～49 日齢時）の気管及びｸﾛｱｶのｽﾜﾌﾞ材料（５羽ﾌﾟｰﾙ）を用い、RT-PCR により IBV を検出し、RFLP 及びﾀﾞｲﾚｸﾄｼｰｹﾝｽで遺伝子解析しました。

● **結果及びまとめ**：72 農場（70.6%）から検出された IBV は、Ⅰ型（38 農場）が最も多く、次いでⅢ型（20 農場）、Mass 型（１農場）の各遺伝子型に区分されました（13 農場は未実施）。疫学情報から、材料が得られた鶏の日齢（30～49 日齢）及び時期並びに初生時ワクチン使用の有無に一定の傾向は認められませんでした。９農場では使用ワクチンと相違する遺伝子型の IBV が検出され、14 農場ではワクチンと同型遺伝子の野外 IBV９株が検出されました（５株はワクチン株）。以上から、県内の肉用鶏農場においては、①平時から IBV の高い侵入リスクがあることが判明しました。また、②Ⅰ型及びⅢ型の IBV ワクチンの初生時以降の追加投与を検討する必要があり、③他の感染症との混合感染を避ける適切な消毒・飼養管理の徹底が最も重要と考えられました。



【 成績の活用 】

養鶏農場の衛生指導に活用。

〒020-0605　岩手県滝沢市砂込 390-5
電話 019-688-4111　ﾌｧｯｸｽ 019-688-4012